



2026年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年8月13日

上場会社名 ノイルイミュン・バイオテック株式会社 上場取引所 東
コード番号 4893 URL <https://www.noile-immune.com/>
代表者 （役職名）代表取締役社長 （氏名）玉田 耕治
問合せ先責任者 （役職名）取締役管理部長 （氏名）永井 寛子 TEL 03 (5843) 7819
半期報告書提出予定日 2026年8月13日 配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2026年12月期第2四半期（中間期）の業績（2026年1月1日～2026年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	事業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	％	百万円	％	百万円	％	百万円	％
2026年12月期中間期	—	—	△419	—	△370	—	△372	—
2025年12月期中間期	4	65.7	△412	—	△410	—	△411	—

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期中間期	△8.59	—
2025年12月期中間期	△9.51	—

（注）潜在株式調整後1株当たり中間純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり中間純損失であるため記載しておりません。

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	％
2026年12月期中間期	3,664	3,574	97.3
2025年12月期	4,011	3,931	97.8

（参考）自己資本 2026年12月期中間期 3,567百万円 2025年12月期 3,925百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2026年12月期	—	0.00			
2026年12月期（予想）			—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2026年12月期の業績予想（2026年1月1日～2026年12月31日）

当社の事業上の特性として現時点では業績に与える未確定な要素が多く、今後の見通しについては、適正かつ合理的な数値の算出が困難な状況と考えており、2026年12月期の業績予想は記載しておりません。なお、今後の事業進捗を踏まえて、合理的な開示が可能となった場合には速やかに開示いたします。また、当該理由、2026年12月期の事業方針などは添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2026年12月期中間期	43,399,118株	2025年12月期	43,301,765株
2026年12月期中間期	125株	2025年12月期	125株
2026年12月期中間期	43,327,457株	2025年12月期中間期	43,301,708株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（4）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況	2
(2) 当中間期の財政状態の概況	2
(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況	2
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	7
(セグメント情報等の注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(中間損益計算書に関する注記)	7
(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	7

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当社は、「がんを克服できる社会の創生に貢献する」という企業理念の下、当社の独自技術であるPRIME (Proliferation-inducing and migration enhancing) 技術を用いた固形がんに対するCAR-TやTCR-Tなどの遺伝子改変免疫細胞療法およびin vivo CAR-Tなどの遺伝子治療の研究開発に取り組んでおります。

当中間会計期間における当事業の概況としまして、PRIME技術を基盤とした自社創薬事業及び共同パイプラインを引き続き推進いたしました。自社創薬事業におきましては、当社パイプラインNIB103の第I相臨床試験において投与を実施し、順調に進捗しております。NIB103以外の自社創薬パイプラインについては、共同開発を含めたあらゆるアプローチを介して開発の推進を目指すとともに、NIB104やNIB105の早期の臨床ステージ移行に取り組んで参ります。NIB104につきましては、国立大学法人山口大学及び国立大学法人九州大学が共同で申請した医師主導第I相臨床試験に関する研究開発事業が、AMEDの令和8年度「橋渡し研究プログラム」に採択され、当社も連携企業として参画しております。また、当社はこれらに続く新たなパイプラインや次世代技術に関する研究について引き続き実施しております。2017年より継続している国立大学法人山口大学との共同研究においては、引き続きCAR-TやTCR-Tを中心とした次世代型遺伝子改変細胞療法、他家細胞を利用したがん免疫細胞療法、次世代型PRIME技術に関する研究を実施しております。また、当社はin vivo CAR-Tの研究開発を積極的に推進しており、その一環として東京大学との共同研究を推進しております。なお、当社の取り組む事業に対しては、山口県の「令和7年度やまぐち再生医療等実用化・産業化推進補助金事業」及び宇部市の「宇部市再生医療等先端的研究開発実用化推進補助金」の支援を受けております。

共同パイプラインにおきまして、従前よりPRIME技術をライセンスしている Autolus therapeutics plc及び中外製薬株式会社による研究開発が引き続き進行しております。

以上の結果、当中間会計期間における事業収益は計上がなかった（前年同期は4,285千円）一方で開発の継続により、営業損失は419,977千円（前年同期は412,520千円の営業損失）となりました。経常損失は370,806千円（前年同期は410,102千円の経常損失）、中間純損失は372,016千円（前年同期は411,672千円の中間純損失）となりました。

なお、当社は、がん免疫療法創薬事業の単一セグメントであるため、セグメント別の記載を省略しております。

(2) 当中間期の財政状態の概況

(資産)

当中間会計期間末の総資産は3,664,871千円となり、前事業年度末に比べ346,708千円減少しました。これは主に、現金及び預金が373,357千円、未収消費税等が15,483千円減少、前渡金が28,882千円、前払費用が13,735千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当中間会計期間末の負債は90,344千円となり、前事業年度末に比べ10,705千円増加しました。これは主に、未払金が11,170千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は3,574,526千円となり、前事業年度末に比べ357,413千円減少しました。これは主に、中間純損失の計上により利益剰余金が372,016千円減少し、譲渡制限付株式報酬としての新株発行により資本金が7,301千円、資本剰余金が7,301千円増加したこと等によるものであります。

(3) 当中間期のキャッシュ・フローの概況

当中間会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は、3,544,964千円となり、前事業年度末に比べ373,357千円減少しました。当中間会計期間におけるキャッシュ・フローの状況と主な要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動に使用した資金は、373,490千円（前年同期は357,418千円の使用）となりました。これは主に、税引前中間純損失370,806千円の計上、前渡金の増加28,882千円による減少があった一方、未収消費税等の減少15,483千円、未払金の増加11,170千円による増加があったこと等によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動で得た資金は、132千円(前年同期は0千円の収入)となりました。これは、研究施設差入保証金余剰分返金により差入保証金の回収による収入132千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは発生しませんでした(前年同期は20千円の使用)。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社は、NIB103の第Ⅰ相臨床試験に取り組んでおり、当該試験における患者への投与を開始し順調に進捗しております。引き続きNIB103の開発を推進して参ります。なお、NIB103以外の自社創薬パイプラインについては、共同開発を含めたあらゆるアプローチを介して開発の推進を目指すとともに、NIB104やNIB105の早期の臨床ステージへの移行に取り組んで参ります。特に、NIB104につきましては、国立大学法人山口大学及び国立大学法人九州大学と連携し、医師主導第Ⅰ相臨床試験に関する研究開発を実施しております。また、当社はこれらに続く新たなパイプラインや次世代技術に関する研究について引き続き実施しております。共同パイプラインについては、既存のパートナーとのプロジェクトを推進するとともに、新たなパートナーとの提携を目指しております。しかしながら、当社の事業はパートナーによる事業の進展状況や新たなライセンス契約による事業収益等によって業績が大きく変動する可能性があります。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年12月31日)	当中間会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,918,321	3,544,964
貯蔵品	2,154	2,071
前渡金	14,187	43,070
前払費用	21,604	35,340
未収入金	4	299
未収消費税等	26,186	10,702
その他	980	637
流動資産合計	3,983,440	3,637,086
固定資産		
投資その他の資産		
長期前払費用	4,195	3,973
差入保証金	23,943	23,811
投資その他の資産合計	28,139	27,784
固定資産合計	28,139	27,784
資産合計	4,011,579	3,664,871
負債の部		
流動負債		
未払金	16,130	27,301
未払費用	31,176	31,665
未払法人税等	23,610	22,438
預り金	3,488	3,706
流動負債合計	74,405	85,111
固定負債		
資産除去債務	5,233	5,233
固定負債合計	5,233	5,233
負債合計	79,639	90,344
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,047,254	4,054,555
資本剰余金	4,025,098	4,032,399
利益剰余金	△4,147,239	△4,519,256
自己株式	△20	△20
株主資本合計	3,925,092	3,567,678
新株予約権	6,847	6,847
純資産合計	3,931,939	3,574,526
負債純資産合計	4,011,579	3,664,871

(2) 中間損益計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
事業収益	4,285	—
事業費用		
研究開発費	※1 195,957	※1 193,392
その他の販売費及び一般管理費	※2 220,848	※2 226,584
事業費用合計	416,806	419,977
営業損失(△)	△412,520	△419,977
営業外収益		
受取利息	2,353	4,162
補助金収入	—	45,000
為替差益	51	—
その他	12	17
営業外収益合計	2,418	49,179
営業外費用		
為替差損	—	8
営業外費用合計	—	8
経常損失(△)	△410,102	△370,806
税引前中間純損失(△)	△410,102	△370,806
法人税、住民税及び事業税	1,570	1,210
法人税等合計	1,570	1,210
中間純損失(△)	△411,672	△372,016

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位: 千円)

	前中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純損失(△)	△410,102	△370,806
株式報酬費用	—	2,229
受取利息	△2,353	△4,162
棚卸資産の増減額(△は増加)	2,711	82
前渡金の増減額(△は増加)	2,395	△28,882
未収消費税等の増減額(△は増加)	30,418	15,483
未払金の増減額(△は減少)	△1,069	11,170
未払費用の増減額(△は減少)	360	488
契約負債の増減額(△は減少)	△4,714	—
その他	25,276	△1,179
小計	△357,078	△375,575
利息及び配当金の受取額	1,993	3,525
法人税等の支払額	△2,420	△2,420
法人税等の還付額	85	980
営業活動によるキャッシュ・フロー	△357,418	△373,490
投資活動によるキャッシュ・フロー		
差入保証金の回収による収入	0	132
投資活動によるキャッシュ・フロー	0	132
財務活動によるキャッシュ・フロー		
自己株式の取得による支出	△20	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△20	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△357,438	△373,357
現金及び現金同等物の期首残高	4,670,939	3,918,321
現金及び現金同等物の中間期末残高	※ 4,313,500	※ 3,544,964

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

当社は、がん免疫療法創薬事業の単一セグメントであり、セグメント情報の記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(中間損益計算書に関する注記)

※1 研究開発費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
委託研究費	84,456千円	96,513千円
給料手当	43,565	34,286
研究材料費	12,603	11,054

※2 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
役員報酬	44,168千円	44,443千円
特許関連費	16,855	22,222
給料手当	44,409	40,065
支払報酬	23,890	21,452

(中間キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前中間会計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年6月30日)	当中間会計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年6月30日)
現金及び預金勘定	4,313,500千円	3,544,964千円
現金及び現金同等物	4,313,500	3,544,964